

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 5 号 (5 月 23 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区総体日大に完敗 Y2A は勝ち点 3 を得る

5 月 11 日 (土) 地区総体が、地区大会の聖地山形市スポーツセンター (クレー) にて行われました。近年は施設整備が進み、地区大会でも人工芝や天然芝を利用している場合が多いが、村山地区高体連では、スポセンを大切にしている。中には、「中体連の地区大会でさえ人工芝使っているのに」という声も聞こえるが、「もう 1 面山形市内に人工芝ピッチあれば可能なのに¹」とも思うし、「なんだかんだ言って、隣り合わせ 2 面で大会をし、中央の本部ベンチから両側の試合が観られるスポセンは便利」とも言える。ただ、近年は野球場ができたことで駐車場が狭くなったり、駐車場とピッチが近くなってボールが駐車されている車に当たる物損事故が発生しやすくなったり、そして、土の質が変わって降雨の時のぬかるみが激しいなど、不便も感じるスポセン。「先輩方の血と涙と汗が刻み込まれているスポセンはやはり手放せない」などの根性論では、今後は立ち行かないのかもしれない。

さて、山東は M リーグを 1 位抜けできたおかげで、地区総体前に県総体出場を決め、シード校と鎬を削るトーナメントに入ることができた。**山東の相手は強豪日大山形**。例年日大山形とはシーズンイン前に練習試合をさせてもらうのだが、今年はスケジュールが合わずできなかったのもので、県総体前に日大と試合ができるのはとてもうれしい。日大のスタッフからはクレームが来る表現だが、**日大とやると誰が (上のレベルで) 通用する選手か否かがはっきりわかる**。わからされる。**リトマス試験紙のようなチーム**とされている。速く激しい球際、高いヘディング、パワフルかつ連続的な攻撃は伝統。この試合に、**清野総監督 (後援会名誉会長)、工藤先輩、後藤報道局長**の「いつものお三方」は当然のようにいらっしゃる。大勢の保護者、保護者 OBOG もいらっしゃった。また、学校から応援団チアリーディングも駆けつけてくれた (制服で、だが)。

試合が始まると、すぐに押し込まれる。山東は今シーズンこれまで、スキルの不足を高い守備意識、力強い球際で補い、何とか戦ってきた。力強い山南にも、少なくとも球際のところでは後手を踏んでいなかった。しかし、この、今期の山東の「土俵」にて、やはり日大は一步も二歩も上手。上背がない選手も、ヘディングの打点が高い。それは、ジャンプ力などの運動能力の問題だけではない。**ボールの予測、予測を前提にした体勢の準備な**

¹ 山形市球技場に加え、山形明正高校 G を利用すれば、人工芝で地区総体が可能ではないかと思う方いらっしゃるかもしれませんが、明正会場は女子の地区総体で使用するのが慣例。ということで、やはり 1 面足りない。天童市の県総合運動公園第二運動広場を利用する手もありますが・・・。

どの、頭の回転の速さがまず前提にある。山東の選手、日大の選手と比べ、頭が相当に悪い。とすれば、日大と違う「土俵」の勝負に持ち込めればいいが、それができる今期のチームではない。日大の息もつかせぬ波状攻撃に山東守備が混乱。なんでもないボールをゴール前でCBがクリアミスして相手にボールをプレゼントしての、あっけない失点から始まり、あとは記述も嫌になる一方的な試合展開で、**前半2失点。後半も2失点。計0対4の完敗。4点差以上の力の差を感じました。山東のシュート0**。崩れるような試合に、「真摯にプレーする日大さんに申し訳ない」という気持ちすら起きました。激しく戦いながら丁寧にプレーする、正面からぶつかる気持ちのこもったプレーをしながら相手の意表を突く狙いを持つという、**一見すると真逆なことを同時に行えてはじめて真のフットボーラー**と思うが、山東の選手、課題が大きいと改めて思いました。県総体までに期間はあまりないため、大きな進歩は望めません。**いかに適切なディテール（細部）の変化により、大きなパフォーマンス向上を図るか**。手腕が問われます。

地区総体は結局、その日大山形の優勝となりました。日大は今期Y1で不調だったのですが、山東が変化のきっかけを作ったようです。「**相手の力を引き出す、さすが山東!**」と自嘲気味にまとめておきましょう。準決勝は日大対山南だったのですが、山南は日大に屈したものの内容面ではかなり肉薄しており、シュート0のどっかのチームとの違いは明らかでした。改めて、前日の不甲斐ない戦いを反省させられました。

そして、その翌週、5月18日（土）山形中央高校Gにて、Y2A第5節山形城北B戦がありました。城北Bはこれまでのリーグ戦で得点を挙げられておらず、山東が初めてのチームになってしまうのでは、などと内心危惧しながら試合に臨む。城北Bが山東のDFのボール保持に強いプレッシャーをかけてこないのも、山東のDFがゆとりをもってボールを持つが、受け手の問題もあろうし出し手の問題もあるだろう、とにかく時間をかけた上でかなりの精度の悪いボールを前方に蹴るのみで、いまいちイメージがわからない²。**ボールは圧倒的に山東が保持するが、結局絶好機を作れず、前半終了**。後半はポジションを変更して臨むと、すぐ左サイドの崩しからFWに復帰した**オサことオサイリスが冷静に流し込み、後半開始早々に山東先制**。前線の起点ができたことで、サイドアタックが効いてきた。この日オサ、今リーグ戦初得点したと思ったら、**結局ハットトリック達成。ノブの得点を含め、後半4得点した山東が0対4の勝ち**。まあ、オサのゴール前の落ち着きに助けられたと言えるかもしれないが、個人的には、左サイドからのノブのナイスセンターリングを受けたオサのヘディングシュート、あれを決めてほしかった。というか、私は決まったとばかり思った。「(2点目決めたと思ったら)その直後にハットトリック達成か～」と思って観てたら、そのヘディング外すし。練習あるのみ。ただし、勝ち点3をしっかりと得ることができたのは、まずは良かった。

次戦は県総体前最後の試合になります。またの応援、宜しくお願い致します。

5月25日（土）Y2A第6節 酒田東戦 @山形中央G 13:00~

² この「イメージがわからない」というのは、ミスのなかでも最悪の部類。「ミスとなったけど、あいつはああいうことを狙ってたんだ、なるほどおもしろい」とイメージが伝わるのならミスも前向きに受け止められるが、「えっ、何がしたかったの?」という、意図が全く読めないボールロストが山東多すぎる。